

水と共生に

「世界水フォーラム」アラカルト 世界中の人間の英知を集め、水問題を解決！



グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー 吉村 和就

1972年荏原インフィルコ入社。荏原製作所本社経営企画部長、国連ニューヨーク本部の環境審議官などを経て、2005年グローバルウォーター・ジャパン設立。現在、国連テクニカルアドバイザー、水の安全保障戦略機構・技術普及委員長、経済産業省「水ビジネス国際展開研究会」委員、自民党「水戦略特命委員会」顧問などを務める。著書に『水ビジネス 110兆円水市場の攻防』（角川書店）、『日本人が知らない巨大市場 水ビジネスに挑む』（技術評論社）、『水に流せない水の話』（角川文庫）など。

第7回「世界水フォーラム※」が韓国・大邱（テグ）を中心に4月17日までの6日間開催された。大邱EXCOコンベンションセンター（写真1）と慶尚北道HICOコンベンションセンター（慶州）をメイン会場に、世界168カ国から約4万1000人が参加した（事務局発表）。会場では、「私たちの未来への水、安全で豊かな水を全ての人々に」をテーマに約400のテーマセッションが展開された。

3年ごとに開催される世界水フォーラムは、国際機関や各国政府、地方政府、学界、リサーチセンター、水に関する民間企業、専門家ネットワーク、事業体やNGO（非政府組織）、

NPO（特定非営利活動法人）、さらにメディアが一堂に会し、水を多面的な視点から捉え、将来の水政策を提言する世界最大級の会議である。今回は、各国の首脳級が参加する政治プロセス、具体的なテーマを掲げて討議するテーマ別会議、地域性テーマ、科学技術の4つのメインプログラムが展開された。

開会式

4月12日の開会式では、ホスト国を代表して朴 槿恵（パク・クネ）韓国大統領が、最近世界中で起きている水不足の現状に触れ、「水問題の解決は、地球温暖化による水資源への影響など1カ国だけで解決できるものではなく、国際的なつながりで人間の英知を集め、水問題を解決することがますます重要になってきている、次世代のため、世界水フォーラムの成果を期待します」とあいさつした。

会期中は、公式会議のほか、70の



写真2 皇太子さまのビデオメッセージ

市民フォーラムや100を超えるサイドイベントが開催され、多くの参加者でにぎわった。

皇太子さまのビデオメッセージ

皇太子さまは、「人々の水への想いをかなえる」とのテーマでビデオメッセージをお寄せになった（写真2）。その中で、日本の国民が水とともに歩んだ歴史を振り返られたうえで、「いまだに世界各地で多くの人命や財産が失われています。自然の力に対し科学技術がいまだに及ばないところがありますが、人々の知恵と工夫、何よりも強い意志と想いが、より良い科学技術を生み、安全で豊かな『私たちの未来のための水』へと発展していくことを確信しています」と述べられた（詳細は宮内庁



写真1 EXCO大邱コンベンションセンター＝韓国大邱市

※世界水フォーラムは3年に1回開催。第1回はモロッコ・マラケシュ（1997年）で開催され、以降、第2回オランダ・ハーグ（2000年）、第3回琵琶湖淀川水系（京都、滋賀、大阪）で開催（03年）、第4回メキシコ（06年）、第5回トルコ・イスタンブール（09年）、第6回フランス・マルセイユ（12年）で開催された。

HPを参照)。会場からは大きな拍手がわいた。

● 首脳級が参加した ハイレベル会合

水の安全保障と持続可能な水循環を築くための提言として、インフラへのファイナンス（資金調達）問題、世界の貧困削減を目指す国連ミレニアム開発目標（MDGs）の後継策、国際連携のあり方など、2030年に向けての提言が行われた。

太田昭宏・国土交通相は、慶州会場での閣僚会議と円卓会議、さらに「第2回日中韓水担当大臣会合」に出席した。世界水フォーラム向けに「日中韓、3カ国は先進的な水への取り組みを共有し、その経験を諸外国に広める」ことを確認し、共同声明に署名した。

● テーマセッション

特徴のあったテーマセッションとしては、以下のようなものがあった。地球温暖化に適応するための水リスクの低減、水とエネルギーと食糧問題、水災害と防災対策、各国の水ガバナンスが討議された。

また、新しいテーマとして「水の文化、正義、そして公平さ」が討議され、多様性のある「水文化の継承」の大切さ、「女性と水問題」、「新しい水倫理のあり方」などに焦点が当てられた（写真3）。



写真3 テーマセッションで意見交換(中央が筆者)

● 日本パビリオン

日本パビリオンの開所式では、日本水フォーラムの竹村公太郎事務局長が「参加されている産・官・学、NGOなどが総力を挙げ、日本の水への取り組みを世界に発信しよう」と力強くあいさつした。国土交通省の宮本健也河川調査官や関係者で、日本パビリオンの成功を祈り日本から持参したダルマに目を入れた。

4月14日には、在大韓民国日本国大使館の別所浩郎特命全権大使が日本パビリオンを訪れ、各展示ブースを回って関係者を激励した。

● 日本勢の活躍

・技術セッション

「都市の水資源としてのリサイクルと再生利用」が、ヴェオリア・日本サニテーションコンソーシアム主催で行われ、モナコ公国の大公、アルベール2世も臨席され、満員の盛況であった。

日本サニテーションコンソーシアム（JSC）の河井竹彦事務局長のあいさつのもと、東大大学院の滝沢智教授の司会で、ワールドビジネスカウンシルのジョッペ・クランウイッケル氏が基調講演を行ったあと、タイ国、日本下水道協会、ヴェオリア社から事例報告があり、締めくくりのパネルディスカッションも盛況であった。

・サイドイベント

「水といのちものつくり中部フォーラム」が主催した「シンプル・低価格技術の活用で非都市地区の水問題の解決」が盛況であった。一般社団法人「名古屋環未来研究所」（代表・山田雅雄氏）が中心になって企画した農村向けの安価で使いやすい飲料水設備や排水処理施設、排泄物対策を紹介し、最後にパネルディスカッショ



写真4 EXPO展示会場

ンが行われた。

国連などの調べでは、安全な水の恩恵を受けていない7億4800万人のうち6億7300万人が農村部に住んでいると見込まれており、緊急課題として当フォーラムイベントが注目された。

・ワークショップ

総合地球環境学研究所（部門長・阿部健一教授）が主催するワークショップで、未来を創造する子供たちが水への感性を高めるために、水の多様性と文化、水は何にでも変身する（陰と陽）、小さな一歩の踏み出し方などわかりやすく説明し、多くの関係者から注目を集めた。

● EXPO 展示会場

1万8000m²のEXPO展示会場（写真4）には、世界から約300ブースの出展があった。自国のパビリオンを開設していたのは、韓国、日本、アラブ首長国連邦（UAE）など15カ国である。

● 閉会式

閉会式では「大邱広域一慶尚北道宣言」が採択され、国連・持続可能な開発目標（SDGs）の水分野への関与を強力に推進する行動指針が発表された。

次回2018年の世界水フォーラムの開催地はブラジルの首都ブラジリアと発表された。■